

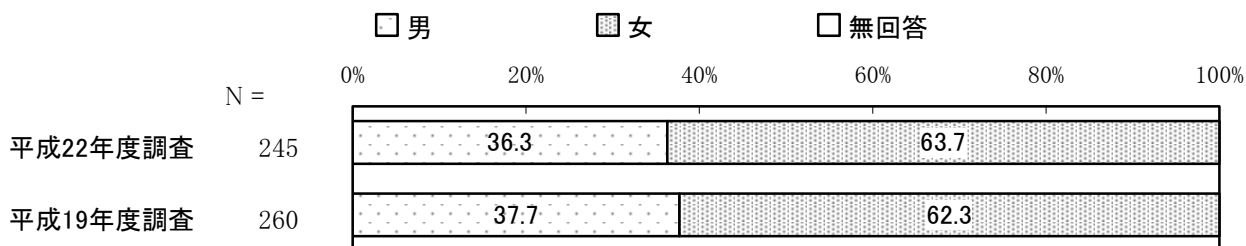
### Ⅲ 障がいのない人調査結果

#### 1 回答者について

問1 あなたの性別について、どちらかに○をつけてください。

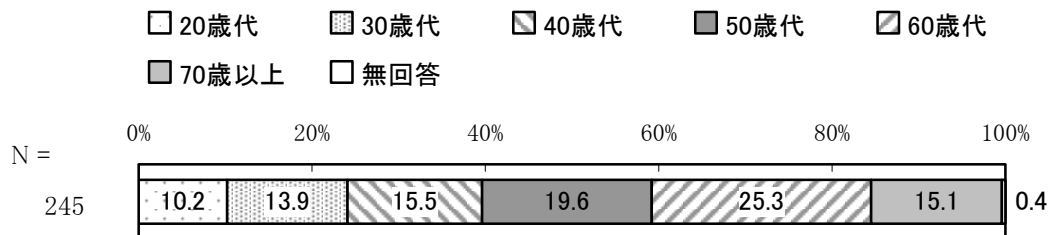
「男」の割合が36.3%、「女」の割合が63.7%となっています。

平成19年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問2 あなたの年齢を記入してください。(平成22年11月1日現在)

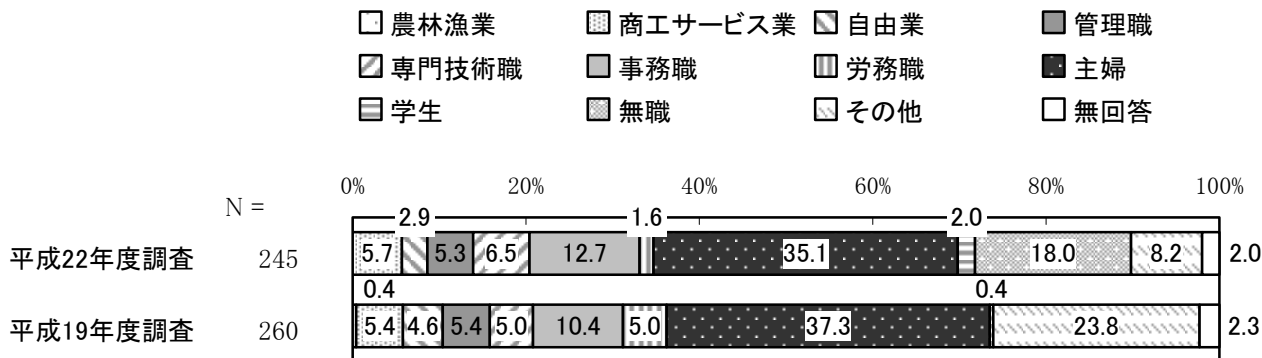
「60歳代」の割合が25.3%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が19.6%、「40歳代」の割合が15.5%となっています。



問3 あなたのご職業は何ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

「主婦」の割合が35.1%と最も高く、次いで「無職」の割合が18.0%、「事務職」の割合が12.7%となっています。

平成19年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



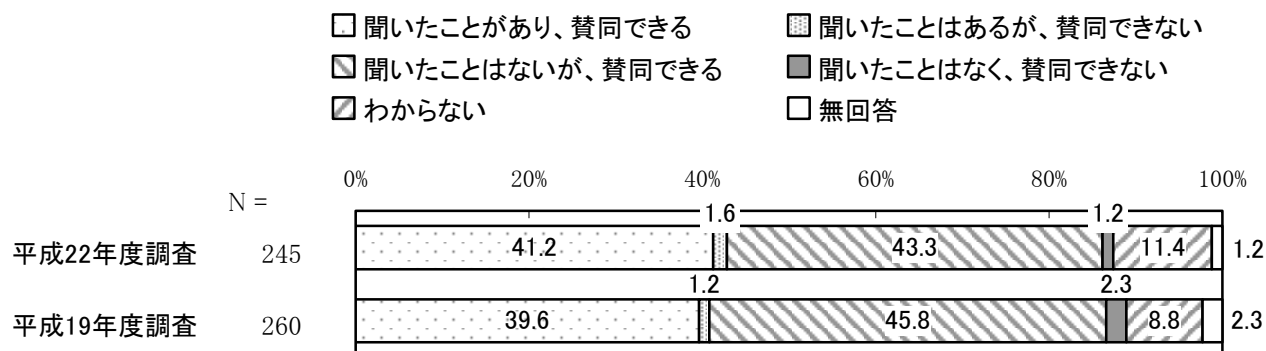
※平成19年度調査には、「無職」の選択肢はありません。

## 2 共生社会について

問4 「共生社会」とは、障がいの有無等にかかわらず、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う社会のことです。あなたは、この「共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。また、このような社会のあり方についてどのように考えますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

「聞いたことはないが、賛同できる」の割合が43.3%と最も高く、次いで「聞いたことがあります、賛同できる」の割合が41.2%、「聞いたことはあるが、賛同できない」の割合が1.6%、「聞いたことはなく、賛同できない」の割合が1.2%となっています。また、「わからない」の割合が11.4%となっています。

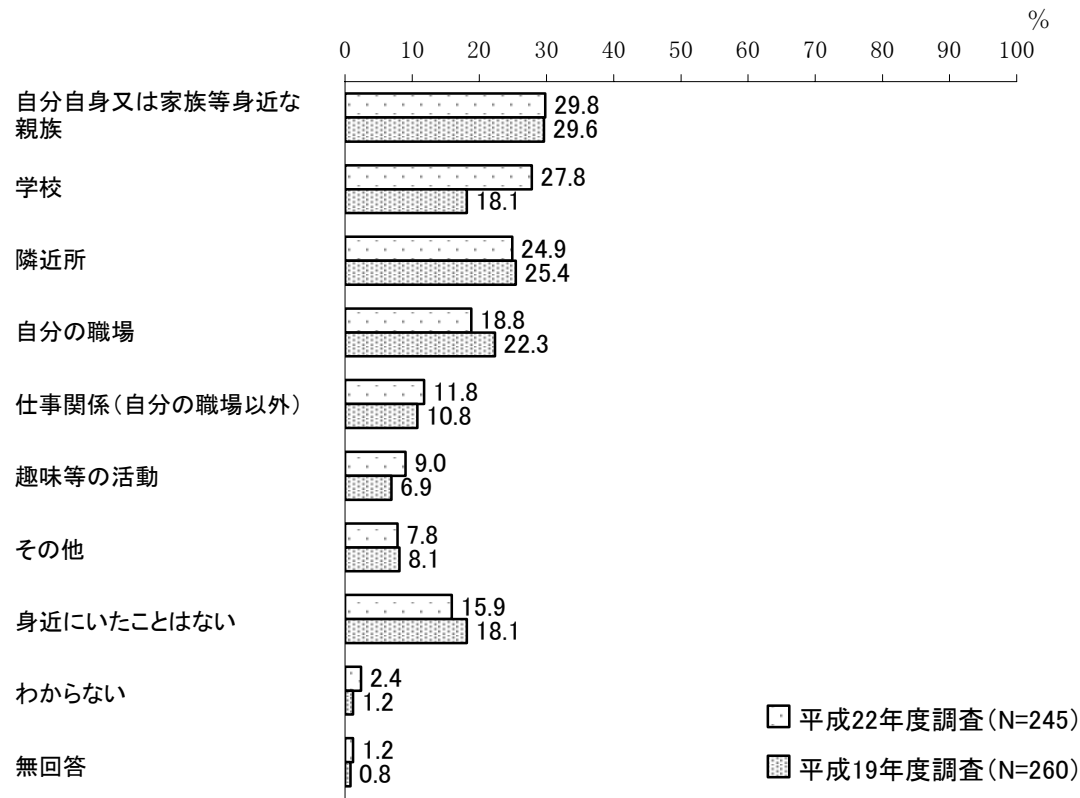
平成19年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問5 これまで、あなたの身近に障がいのある人がいたことはありましたか。また、それはどのような場面でしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「自分自身又は家族等身近な親族」の割合が29.8%と最も高く、次いで「学校」の割合が27.8%、「隣近所」の割合が24.9%となっています。

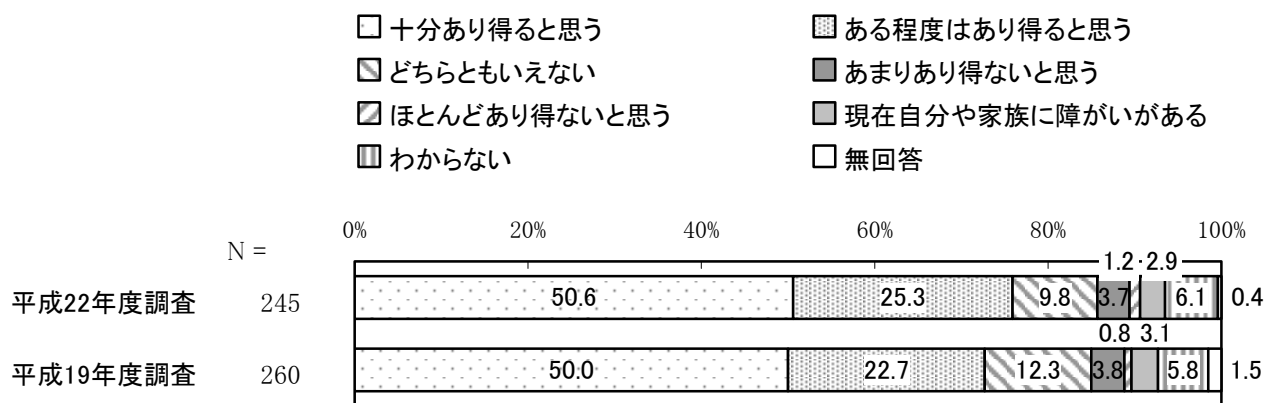
平成19年度調査と比較すると、「学校」の割合が9.7ポイント高くなっています。



**問6** あなたは、将来において自分や家族が障がいのある状態になることがあり得ると思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

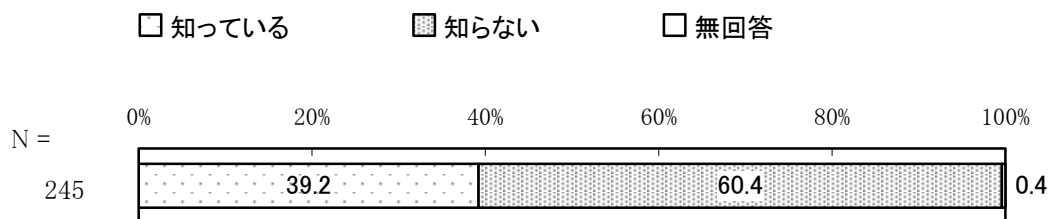
「十分あり得ると思う」と「ある程度はあり得ると思う」をあわせた“あり得ると思う人”の割合が75.9%、「あまりあり得ないと思う」と「ほとんどあり得ないと思う」をあわせた“あり得ないと思う人”の割合が4.9%となっています。

平成19年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



**問7** 成年後見制度について、知っていますか。どちらかに○をつけてください。

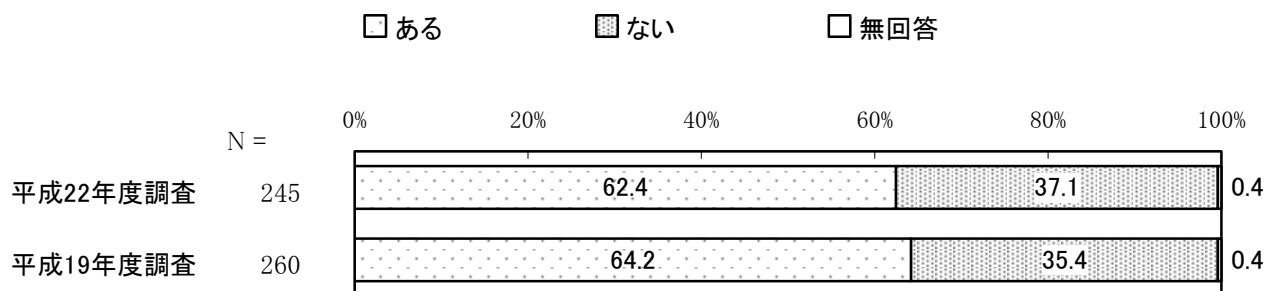
「知っている」の割合が39.2%、「知らない」の割合が60.4%となっています。



問8 あなたは、障がいのある人と気軽に話したり、障がいのある人の手助けをしたことがありますか。どちらかに○をつけてください。

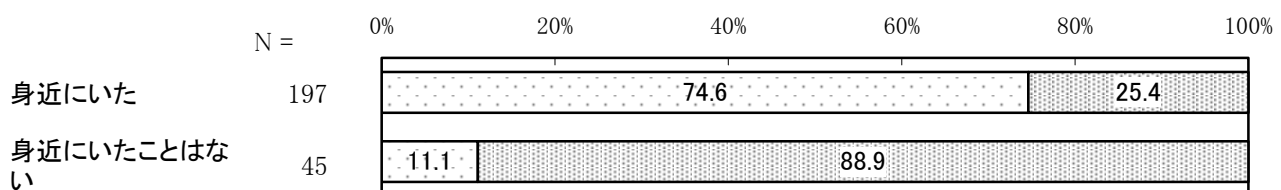
「ある」の割合が62.4%、「ない」の割合が37.1%となっています。

平成19年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



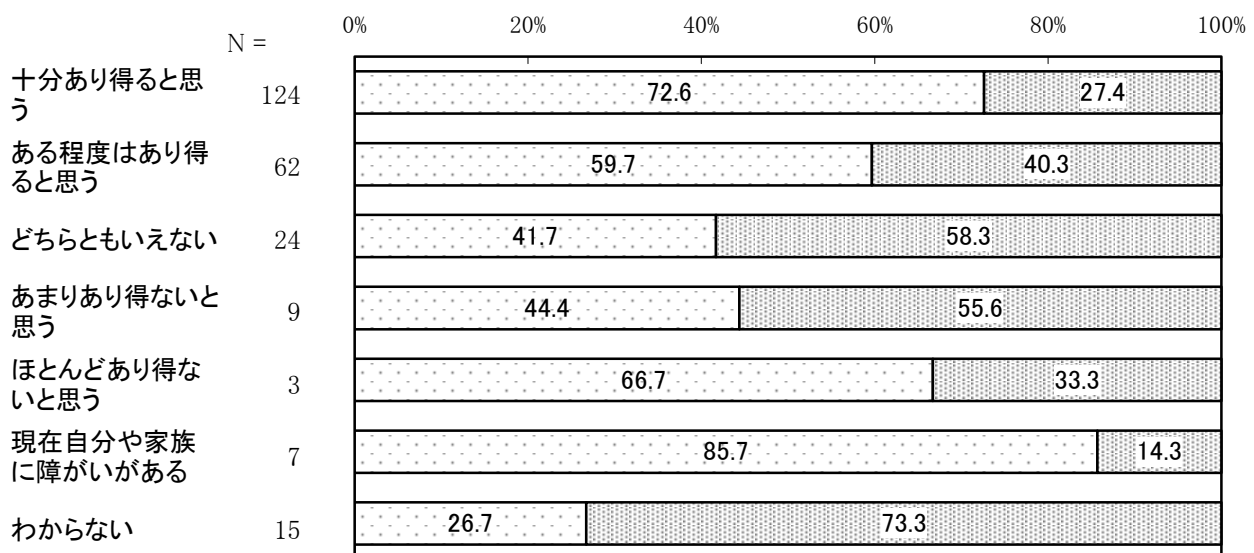
【身近での障がい者の有無別】

身近での障がいのある人の有無別でみると、身近に障がいのある人がいたことのない人に比べて、身近にいた人では「ある」の割合が高く、7割を超えています。



【自分や家族が障がいのある状態になることへの意識別】

自分や家族が障がいのある状態になることへの意識別でみると、他に比べて、十分にあり得ると思っている人では「ある」の割合が高く、7割を超えています。

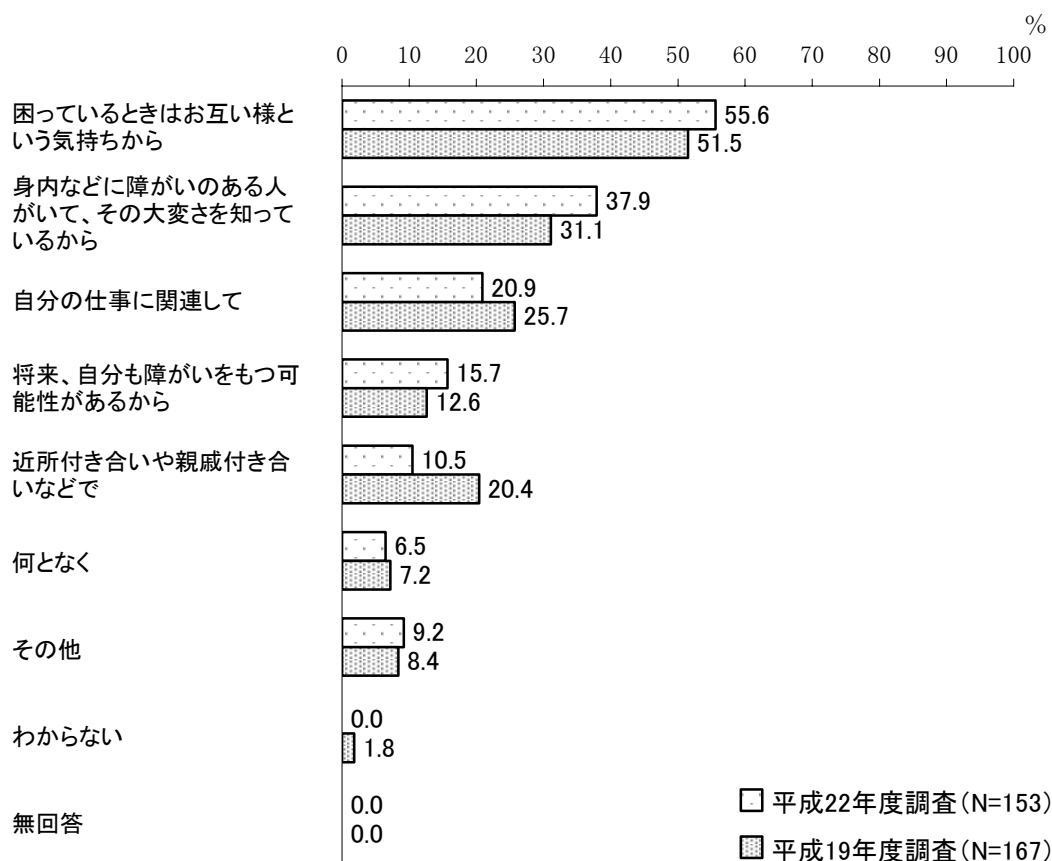


問8で「1. ある」と答えた方にお聞きします。

問8-1 それはどのような気持ちからですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「困っているときはお互い様という気持ちから」の割合が55.6%と最も高く、次いで「身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから」の割合が37.9%、「自分の仕事に関連して」の割合が20.9%となっています。

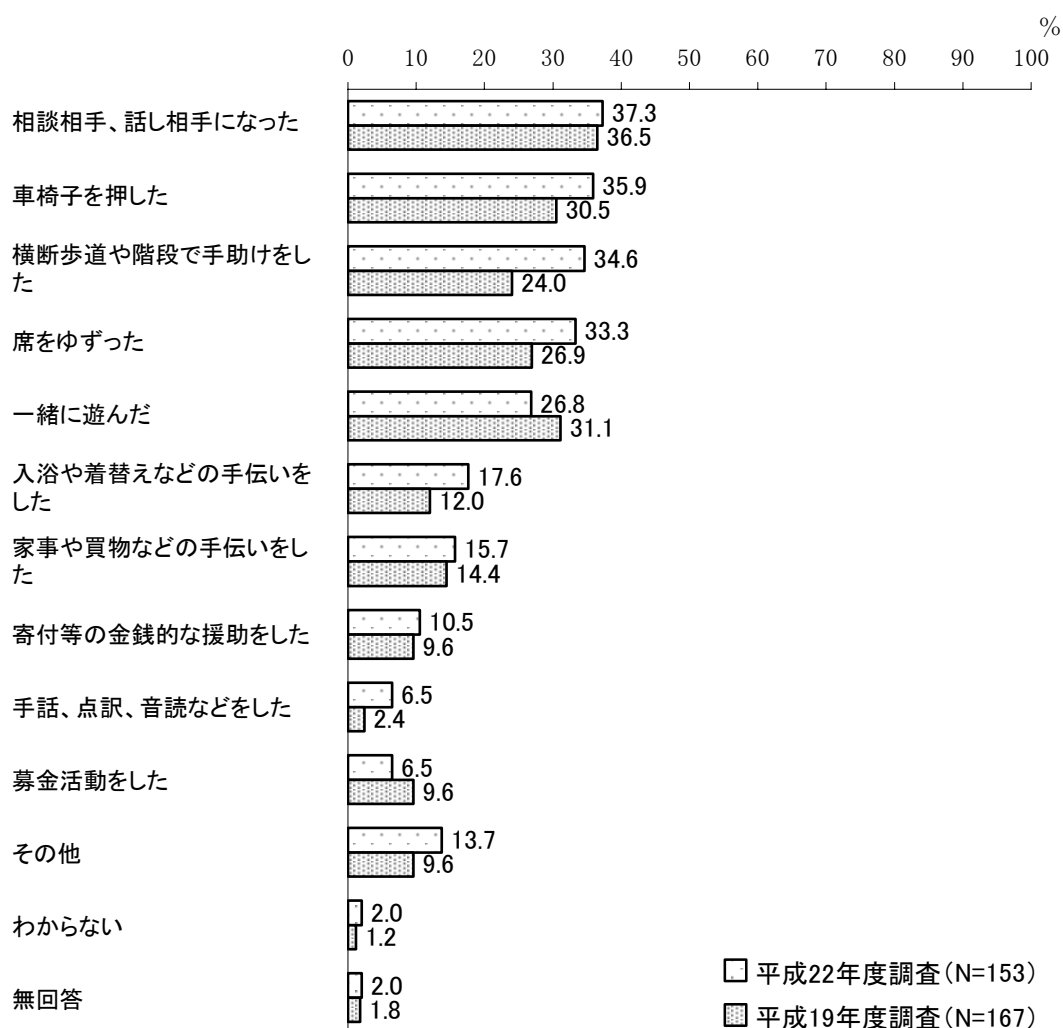
平成19年度調査と比較すると、「近所付き合いや親戚付き合いなどで」の割合が9.9ポイント低くなっており、「身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから」の割合が6.8ポイント高くなっています。



問8-2 それはどのような話や手助けでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「相談相手、話し相手になった」の割合が37.3%と最も高く、次いで「車椅子を押した」の割合が35.9%、「横断歩道や階段で手助けをした」の割合が34.6%となっています。

平成19年度調査と比較すると、「横断歩道や階段で手助けをした」の割合が10.6ポイント、「席をゆずった」が6.4ポイント、「車椅子を押した」が5.4ポイント高くなっています。

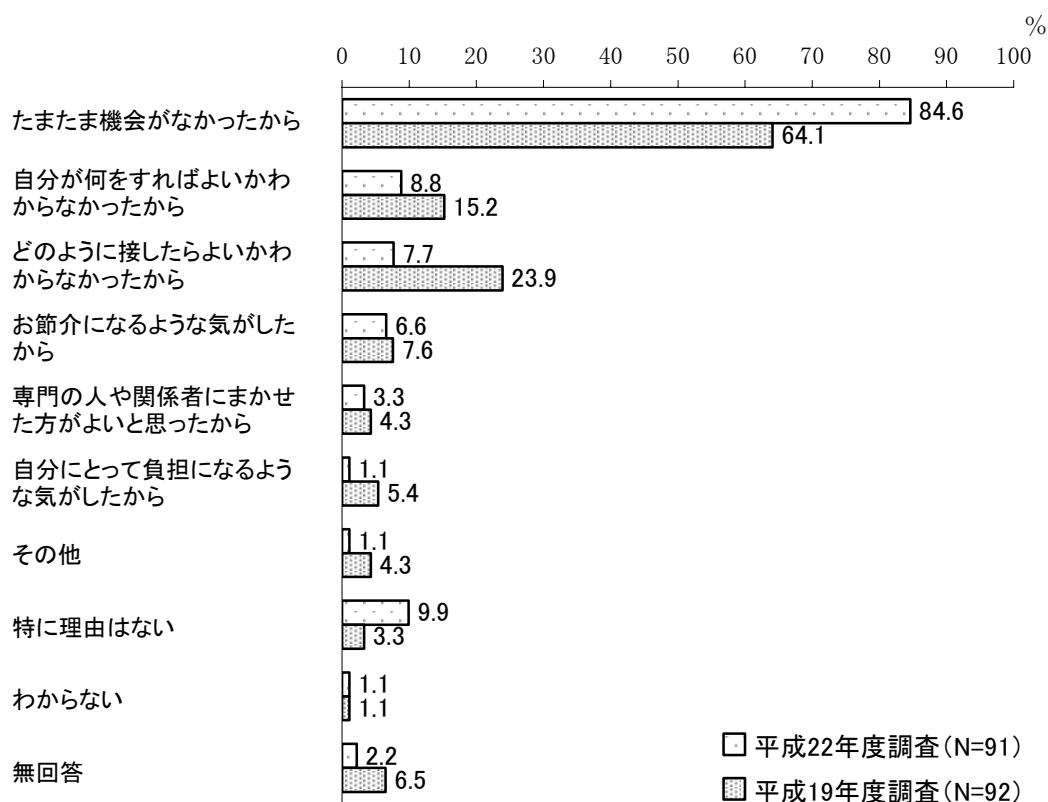


問8で「2. ない」と答えた方にお聞きします。

問8-3 その理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「たまたま機会がなかったから」の割合が84.6%と最も高く、次いで「特に理由はない」の割合が9.9%、「自分が何をすればよいかわからなかったから」の割合が8.8%となっています。

平成19年度調査と比較すると、「たまたま機会がなかったから」の割合が20.5ポイント高くなっています。また、「どのように接したらよいかわからなかったから」が16.2ポイント、「自分が何をすればよいかわからなかったから」の割合が6.4ポイント低くなっています。

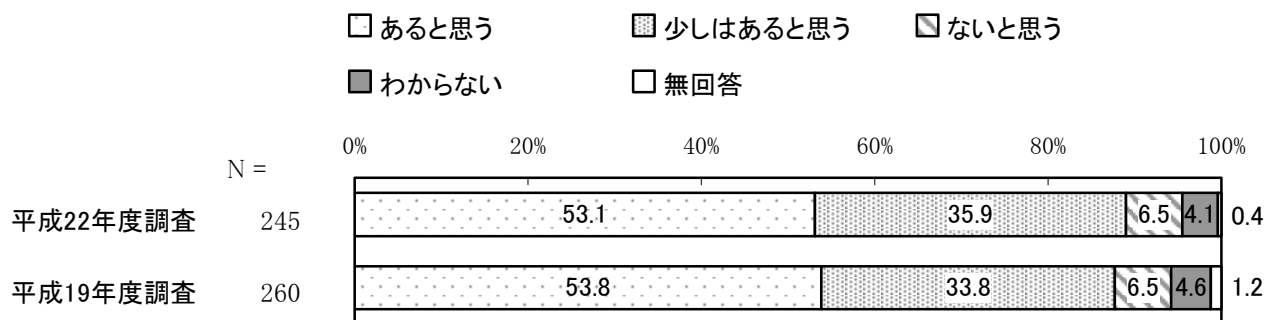




**問9** あなたは、世の中には障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

「あると思う」と「少しはあると思う」をあわせた“障がいを理由とする差別や偏見があると思う人”の割合が89.0%、「ないと思う」の割合が6.5%となっています。

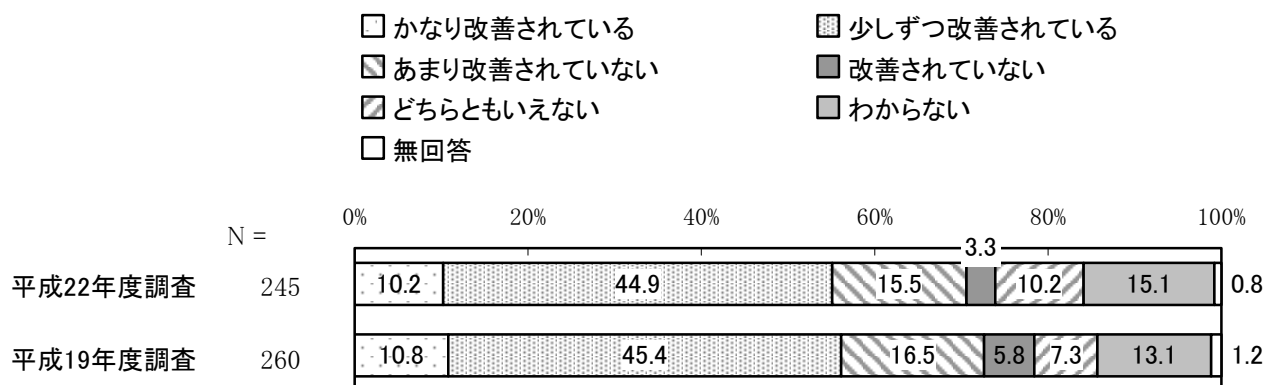
平成19年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



**問10** あなたは、5年前と比べて障がいのある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

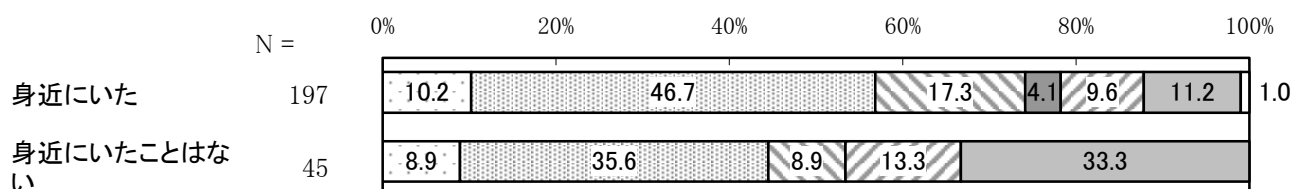
「かなり改善されている」と「少しずつ改善されている」をあわせた“改善されていると感じている人”の割合が55.1%、「あまり改善されていない」と「改善されていない」をあわせた“改善されていないと感じている人”の割合が18.8%となっています。

平成19年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【身近での障がい者の有無別】

身近での障がいのある人の有無別でみると、身近に障がいのある人がいたことのない人に比べて、身近にいた人では“改善されていると感じている人”の割合が高くなっています。

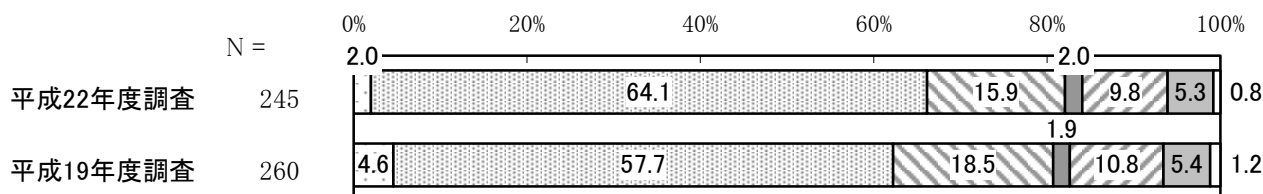


問 11 障がいのある人とない人が同じように生活していくために必要とされる配慮や工夫を行うことをあなたが求められた場合、経済的な負担を伴うこともありますが、あなたはどのようにしますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を行う」の割合が64.1%と最も高く、次いで「負担がなければ、配慮や工夫を行う」の割合が15.9%、「一概にいけない」の割合が9.8%となっています。

平成19年度調査と比較すると、「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を行う」の割合が6.4ポイント高くなっています。

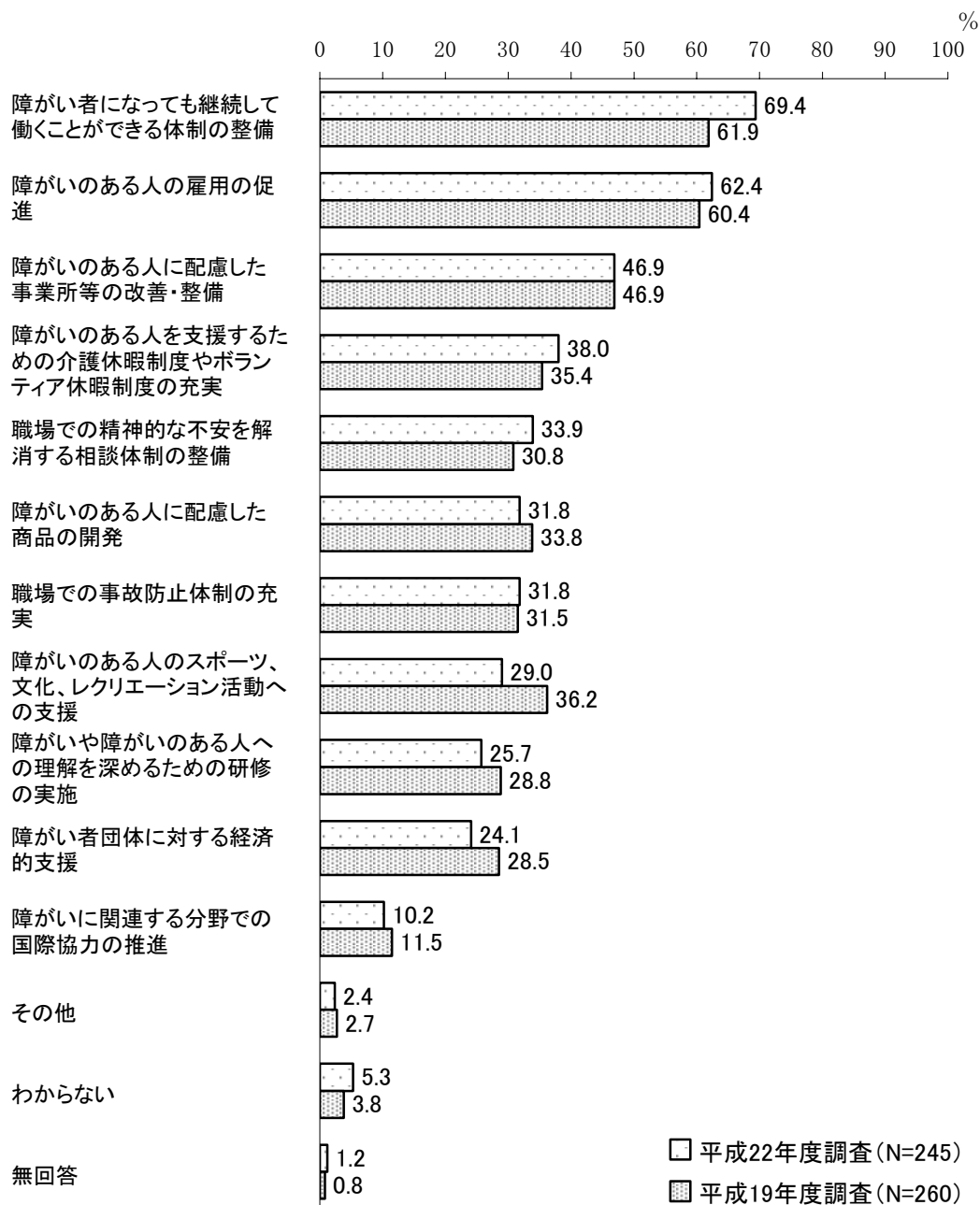
- 負担の程度にかかわらず、配慮や工夫を行う
- 負担がなければ、配慮や工夫を行う
- 一概にいけない
- 無回答
- 可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を行う
- 配慮や工夫を行うことは難しい
- わからない



問 12 あなたは、障がいのある人のために企業などの民間団体が行う活動について、どのようなことを希望しますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「障がい者になっても継続して働くことができる体制の整備」の割合が69.4%と最も高く、次いで「障がいのある人の雇用の促進」の割合が62.4%、「障がいのある人に配慮した事業所等の改善・整備」の割合が46.9%となっています。

平成19年度調査と比較すると、「障がい者になっても継続して働くことができる体制の整備」の割合が7.5ポイント高くなっています。

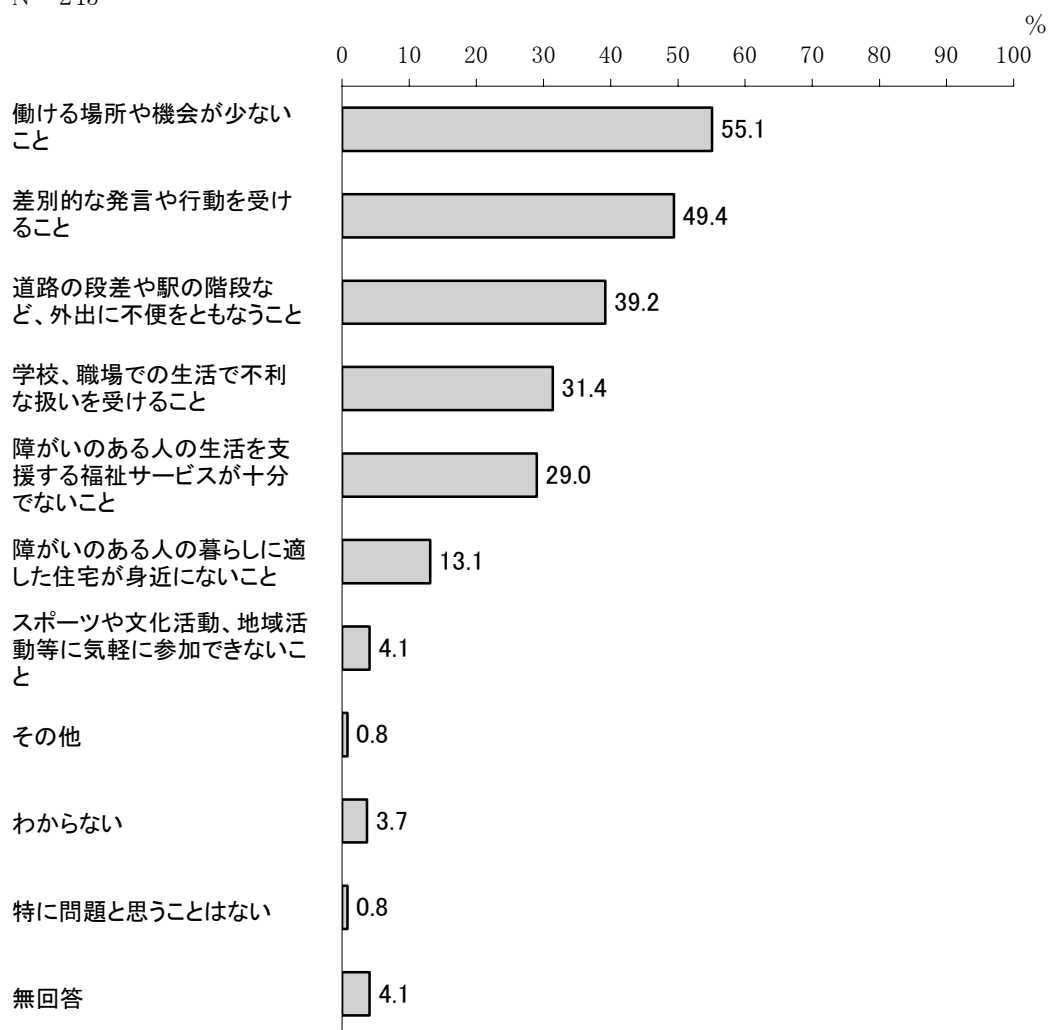


### 3 障がい者の人権について

問 13 次にあげるもののうち、障がいのある人の人権について特に問題があると思われることは何ですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。(無理に3つを選ぶ必要はありません。)

「働ける場所や機会が少ないこと」の割合が55.1%と最も高く、次いで「差別的な発言や行動を受けること」の割合が49.4%、「道路の段差や駅の階段など、外出に不便をとまうこと」の割合が39.2%となっています。

N = 245

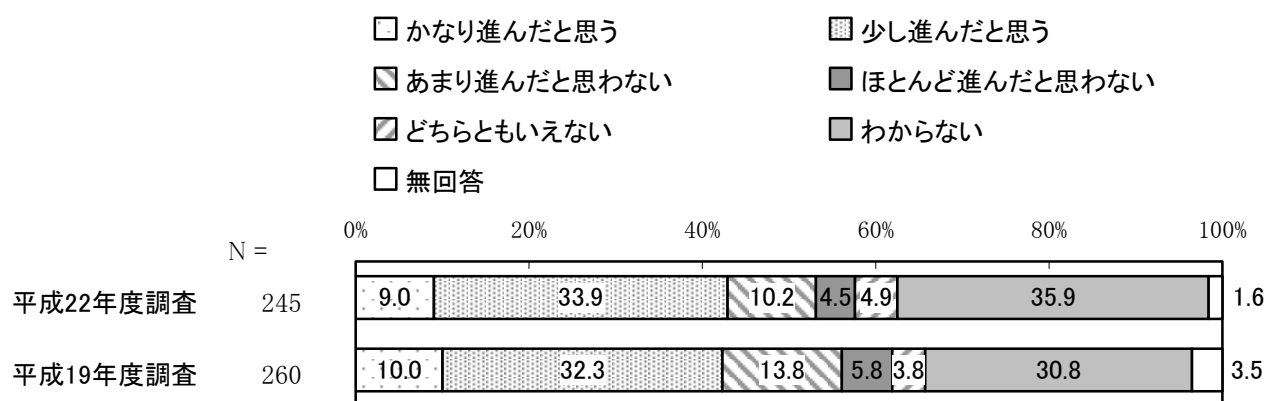


#### 4 障がい福祉サービスについて

問 14 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策は進んだと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけ、どのような点でそう思うのか記入してください。

「かなり進んだと思う」と「少し進んだと思う」をあわせた“進んだと思う人”の割合が42.9%、「あまり進んだと思わない」と「ほとんど進んだと思わない」をあわせた“進んだと思わない人”の割合が14.7%となっています。また、「わからない」の割合が35.9%となっています。

平成19年度調査と比較すると、「わからない」の割合が5.1ポイント高くなっています。



問 15 あなたが今後、特に充実すべきだと考える障がい者の施策について、あてはまるものに5つまで○をつけてください。(無理に5つを選ぶ必要はありません。)

「障がい者の雇用促進」の割合が44.5%と最も高く、次いで「高齢で障がいが重くなったときに生活できる施設の整備」の割合が44.1%、「生活介護（デイサービス）などの充実」の割合が27.3%となっています。

平成19年度調査と比較して、高くなっているものは「療護施設や福祉ホームなど入所できる施設の整備」の割合が16.8ポイント、「高齢で障がいが重くなったときに生活できる施設の整備」の割合が16.0ポイント、「障がい者の理解に関する社会啓発の促進」の割合が6.5ポイント、「障がいのある人への情報提供の充実」の割合が6.0ポイント、「障がいのある人への情報提供の充実」の割合が5.1ポイントとなっています。

また、低くなっているものは「相談窓口や相談指導をする体制の充実」の割合が14.2ポイント、「公共施設のバリアフリー化の推進」の割合が12.3ポイント、「短期入所（ショートステイ）などの充実」の割合が9.9ポイント、「住宅改修補助制度などの充実」の割合が9.1ポイント、「交通機関の充実や移動支援の充実」の割合が6.6ポイント、「生活介護（デイサービス）などの充実」の割合が5.4ポイント、「授産施設などの福祉的な仕事の場の整備・充実」の割合が5.2ポイント、「専門的機能回復訓練などのリハビリテーションの充実」の割合が5.0ポイントとなっています。

